

委員会先進地視察報告書総括表

1 視察日	令和 7年 10月 8日 ~ 10月 10日	
2 視察地・項目	① 群馬 県 渋川 市	
	② 神奈川 県 鎌倉 市	
	③ 東京 都 港 区	ボート関連4団体(競走会、振興会、全施協、選手会)表敬訪問
	④ 県 市・町	
3 参加者	1. 晦日 房和 委員長	7. 朝長 英美 委員
	2. 入江 詩子 副委員長	8. 永尾 高宣 委員
	3. 光山 千絵 委員	9. 黒岩 智子 男女いきいき推進課長
	4. 中村 仁飛 委員	10. 田中 健一郎 安全対策課係長
	5. 村崎 浩史 委員	11. 田中 成龍 書記
	6. 城 幸太郎 委員	12.
4 視察経費	1,195,340 円 ※(11)人分	

委員会視察報告書

報告者 入江詩子

1視察日	令和 7 年 10 月 8 日	
2視察地	群馬県渋川市	
3参加者	総務委員会	
	1. 晦日 房和 委員長	7. 光山 千絵
	2. 入江 詩子 副委員長	8. 中村 仁飛
	3. 朝長 英美	9. 黒岩智子課長
	4. 永尾 高宣	10. 田中健一郎係長
	5. 城 幸太郎	11. 田中 成龍 議会事務局
	6. 村崎 浩史	
4視察項目	渋川市 しぶかわジェンダー平等推進表彰	
5視察先 選定理由・目的	<p>近年、地方自治体においては、多様性の尊重やジェンダー平等の推進が地域社会の持続可能性を高める重要な視点として位置付けられている。群馬県渋川市では、こうした社会的潮流を踏まえ、地域全体でジェンダー平等の実現を図ることを目的とした「ジェンダー平等表彰」制度を実施している。</p> <p>本市においても、男女共同参画のさらなる推進や多様性に配慮したまちづくりを進めるにあたり、先進事例を把握し今後の施策展開に資することを目的として、渋川市への視察を行った。</p>	
6視察内容	<p>2025 年 10 月 8 日 渋川市役所にて 13:30～15:00 まで聞き取りを行う。</p> <p>《渋川市の概要》</p> <p>渋川市は、日本そして群馬県のほぼ中央部、雄大な関東平野の始まる位置にあたり、古くから交通の要衝として栄え、豊富な水資源を活かした工業、山地の開拓による農業や、首都圏の奥座敷となる観光・温泉などを主要産業としてきた。</p> <p>東京都心まで 120 キロメートル(高速道路(関越自動車道渋川伊香保 IC)利用で約 2 時間、JR 上越線及び新幹線利用で約 1 時間 10 分)の距離にあり、JR 上越線、JR 吾妻線の 2 路線が通り、渋川市には JR 上越線の 4 駅、JR 吾妻線には 4 駅がある。南北に関越自動車道と国道 17 号、東西に国道 353 号が通り、関越自動車道には渋川伊香保と赤城の二つの IC がある。</p> <p>地形は赤城山、榛名山、子持山、小野子山に抱かれ、利根川と吾</p>	

妻川の流れによって形成された谷地とともに、標高差が概ね 1400メートル以上となる起伏に富んだ地形を有し、地区の大半が自然的土地利用で占められている。

渋川市は明治の大合併時に 2 町 9 村となり、昭和 29 年から昭和 35 年(昭和の大合併)に現在の市の前身の 6 市町村になり、平成 18 年 2 月 20 日に合併して「渋川市」となった。

令和7年の人口は、男性 34,985 人、女性 36,467 人（外国人住民 1449 人 943 世帯ふくむ）71,452 人 32,965 世帯。少子高齢化が進行しており、令和 5 年度の高齢化率は、36.1%。若年女子の人口流出率が高い。

《事業概要》

渋川市の「ジェンダー平等表彰」制度は、市内でジェンダー平等の推進に積極的に取り組む個人、団体、事業者を顕彰し、その取組を広く周知することで、地域全体の意識啓発と取組拡大を図るものである。

単なる表彰事業にとどまらず、受賞者の活動を市民や事業者に広く共有し、モデル事例として地域に波及させる点が特徴。

《質問事項及び回答：以下当日配布資料より》

(1-1)表彰制度実施に至った背景

◆令和 6 年4月施行「渋川市男女共同参画及び多様性を尊重する社会を推進する条例」→共生社会の実現を目指す本市として、「男」と「女」という2つだけの軸で語られがちな男女共同参画の推進について、一人ひとりの違いを尊重する視点を加え、真に男女共同参画社会の実現を目指す。

◆課題：男女の役割分担に関する固定観念、偏見、女性ロールモデルの不足

◆国の動き：第6次男女共同参画基本計画、女性活躍・男女共同参画重点方針 2025、地方創生 2.0

⇒市民一人ひとりが自分らしく活躍できる社会を目指すため、表彰制度を創設

(1-2) 経緯制度、評価方法の概要

◆対象：市内を活動の場とする個人・事業者・団体

◆目的：ロールモデル発信と社会全体の意識変容

◆評価視点：先進性/波及性/ジェンダー平等意識/実効性・継続

	<p>性</p> <p>◆選考方法:事務局審査→応募者ヒアリング→有識者意見→庁議決定</p> <p>(1-3) 応募内容</p> <p>◆取り組みの概要(取り組みの名称や方針となるキャッチコピーなど)</p> <p>◆取り組みのきっかけ、目的</p> <p>◆取り組みの具体的内容</p> <p>◆効果(取り組みによる変化や功績、社以外への貢献)</p> <p>◆先進性のアピールポイント(先進性や特色、創意工夫した点)</p> <p>◆モデルケースとしてのアピールポイント(汎用性、取り入れやすさ)</p> <p>(1-4) 審査基準</p> <p>◆取り組みの姿勢(取り組み概要やきっかけに、魅力的な点があるか)</p> <p>◆効果(変化や功績、外部に対する貢献への期待)</p> <p>◆先進性(先進性や特色、創意工夫した点)</p> <p>◆モデルケース(汎用性、取り入れやすさ)</p> <p>◆その他、ジェンダー平等に向けた効果が期待できる点</p> <p>(2) 本制度を実施することで期待する効果について</p> <p>◆市民が暮らし・働き方を見直す契機</p> <p>◆受賞団体への信用向上・活動意欲向上</p> <p>◆他団体への波及、地域経済・地方創生 2.0 への貢献</p> <p>(3) 応募件数、応募内容等の実績について(初年度の実績)</p> <p>7 団体応募(①SWEETBOX:テレワークでの就労支援 ②ユースセンターよはく SRHR 推進メンバー:高校生が主体となり同年代への性教育等の啓発 ③ははーず:講座イベントを実施し地域の楽しみ創出 ④ははーずの先生たち from ははーず:地域住民が講師になり公民館で多様な人財が活躍できる場を創出 ⑤トマ子シャバダバン:歌やマイカグラデ地域を盛り上げる ⑥七五三木安英:音楽活動や笑いヨガ、マルシェで地域の文化醸成と交流 ⑦群馬ヤクルト販売株式会社:女性特有の健康課題への理解促進、男性社員の意識改革、組織全体でジェンダー平等推進を実施)</p> <p>⇒①②④⑦受賞 ⑦は、「しぶかわジェンダーヘルス推進功労賞」</p> <p>(4) 今年度の受賞者決定後の反響、市民からの意見について</p> <p>表彰式は、市長定例記者会見内で開催。新聞、WEB メディアで掲載。</p>
--	--

受賞者の声:「活動の励みになった」「就職希望者があった」など好意的な反響

(5) 制度の周知方法について

観光課、商工課前任の担当者二人が足で稼いだ。

市の HP、公式 SNS、広報しぶかわ、関係団体・協働団体への個別連絡

(6) ジェンダー平等に関して庁内で取り組んでいる事例について

◆庁内

1. 女性の健康支援セミナー

協定を結んでいる大塚製薬より、女性特有の健康課題についての講師派遣。(2 回、任意で各課から。30 人程度参加)

上司は男性であり、男性が知識を持っている方が生理や更年期に関する理解を得やすいから。

2. アンコンシャス・バイアスセミナー(市民参加型研修)

専門のトレーナーによる講義を、各所属から推薦のあった職員および市民が受講。

3. その他:令和 6 年度男性の育児休暇取得率 100%。一人に対して 2 回とれる。半年取る人が多い。

◆市民・学校

1. 女性の健康支援セミナー

群馬大学教授による女性の健康に関する理解を深める内容。性別によるアンコンシャス・バイアス解消に向けたトークセッション

2. 性の多様性を理解するセミナー

LGBTQ 支援団体より講師派遣。渋川北中学校 3 年生 95 人に体験談を通して誰もが生き生きと生活できる共生社会の実現に関して話を聞く。

⇒令和 7 年度は市内小中学校 4 校、市民対象 1 回、計 5 回開催予定

3. チラシ等

・包括連携協定を結んでいる大塚製薬株式会社と連携し、市内医療機関監修のもと女性の健康維持や健康増進に関する啓発チラシの作成・配布

・高校生が中心となり、若年層のヘルスリテラシーを高めるために、「SRHR:性と生殖に関する健康・権利」に関して周知を図るチラシを作成、配布

(7) 今後の予定について

	<p>応募案件は、企業による女性の働きがい向上や健康支援、市民団体による地域コミュニティの活性化と居場所づくり、若者によるSRHR 啓発活動、個人による独自の表現を通じた地域貢献など、多角的なアプローチが見られた。</p> <p>《特記事項》</p> <p>企業、若者グループ、個人など、様々な主体がそれぞれの強みを活かし、ジェンダー平等に貢献しようとする高い意識がめばえた。多くの取り組みが市内の具体的な課題や資源に着目し、地域住民の生活に密着した形で展開されており、実効性が期待できる。各応募案件には他の企業や団体、個人が参考に出来るような汎用性や創意工夫が見られ、次年度以降の応募促進にもつながると考えられる。</p> <p>《課題の抽出と改善の方向性》</p> <p>個々の取り組みがジェンダー平等にどのように貢献しているのかという点が、具体的に言語化されていないケースが散見された。固定観念の打破や多様性への配慮にどのように直結しているのか、その因果関係をより明確に示すことで、評価の制度を上げ、受賞後の波及効果を高めることが期待される。</p> <p>(8)今後の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆しぶかわジェンダー平等推進表彰について ●選考基準の改善 <ul style="list-style-type: none"> 「効果」の明確化 「先進性」の視点追加 「その他 PR ポイント」の具体例追加 ●応募要領の改善 <ul style="list-style-type: none"> 応募要領の具体的な記載例の充実 対象となる取り組み「例」のさらなる具体化 応募期間のアナウンス強化 「表彰後の活用」に関する記述の追加 ◆特別賞について <ul style="list-style-type: none"> 地方創生 2.0 および女性活躍重点方針 2025 に沿い、地域の稼ぐ力や多様な人財の定着に資する視点を提示できる賞として発展
7委員会所見	<p>本事業の取り組みのベースとして、渋川市が令和6年4月に制定した「渋川市男女共同参画及び多様性を尊重する社会を推進する条例」がある。ジェンダー平等の推進は、個人の権利保障にとどま</p>

らず、地域社会全体の活力向上にも資するものである。渋川市のように「優れた取組を顕彰し、社会に広げていく」仕組みは、行政の施策を補完し、地域住民の意識変容を促す実践的な手法であると感じた。

また、本事業は今年 8 月まで市長であった元女性市役所職員時代に進められ、前年まで別の課が担当していたがなかなか進まず、今年度から総合戦略部政策戦略家未来戦略係によって実施されるようになったという背景があった。

さらに課長が商工課、係長が観光課を経験しており、足で回る営業的手法や人脈が応募団体数、高校生グループとの連携などに活かされていると感じた。市民や学校を対象にしたセミナーを開催できていることも注目に値する。担当課でまとめて予算請求をするため、外部講師に依頼やすく、次年度のメニューを予め学校に提示できるので学校も参加しやすく、対象校が増えている状況である。

さらに特筆すべきは、今事業にはほとんど予算が要らないという点である。広報、賞状等に多少のお金がかかるだけで議会の承認も得やすかったようである。ただし、職員が足で動き市民からの情報を活かす姿勢が求められる。

事業はまだ始まったばかりなので、どのような波及効果が生まれるのかは今後見えてくるものと思われる。

大村市では男女共同参画に関しては、男女いきいき推進課が男女共同参画社会の実現に向けた事業の推進と、市民協働や NPO・ボランティア活動の支援を行っており、20 歳から 39 歳の女性の減少率が長崎県内の他自治体と比べて緩やかであること、九州に根強いとされる男尊女卑的な慣習に違和感を持ちにくいこと、あるいは持っても声に出しにくいことなども相まって、ジェンダー平等に対するひろがり残念ながら限定的である。

今後、大村市が若者に選ばれるまちを目指すのであれば、渋川市のような先進事例を参考にしながら、ジェンダー平等・多様性を尊重する地域社会づくりを強力に進めていく必要はある。

委員会先進地視察報告書

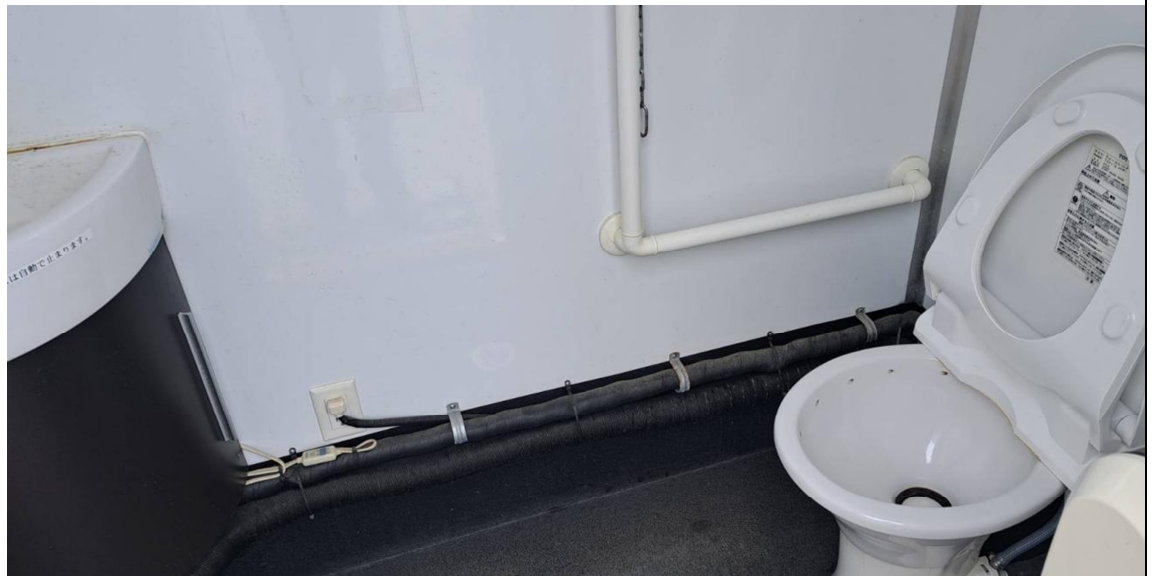
報告者 中村 仁飛

1 視察日	令和 7年 10月 9日		
2 視察地	神奈川県鎌倉市		
3 参加者	総務委員会		
	1 晦日 房和 委員長	5 朝長 英美 議員	9 黒岩 智子 男女いきいき推進課長
	2 入江 詩子 副委員	6 永尾 高宣 議員	10 田中 健一郎 安全対策課係長
	3 村崎 浩史 議員	7 光山 千絵 議員	11 田中 成龍 書記
	4 城 幸太郎 議員	8 中村 仁飛 議員	
4 視察項目	トイレトレーラー		
5 視察先選定理由・目的	本視察は、神奈川県鎌倉市が導入した「トイレトレーラー」について、災害時及び平常時の活用状況を確認し、同様の施策を自治体へ導入する際の有効性及び課題を検討することを目的としたものである。		
6 視察内容	<p>鎌倉市は、災害時の避難生活において深刻な問題となる「排泄環境の悪化」を防ぐため、移動式で水洗式のトイレ設備を備えたトイレトレーラーを導入している。トイレ環境の悪化は、感染症の発生や高齢者の脱水症状の悪化、精神的ストレスの増加につながることで過去の震災でも繰り返し示されており、トイレ環境の確保は避難所運営における重要な視点である。</p> <p>視察を行ったトイレトレーラーは、洋式トイレを4基備え、すべてが水洗式であり、車内には手洗い設備も設置されていた。</p> <p>内部は明るく清潔感があり、災害時だけでなく、平時のイベント時にも一般のトイレと同等の快適さを提供できる仕様となっていた。</p> <p>また、トレーラーには貯水タンクと汚水タンクが搭載されているため、上下水道が整備されていない場所でも利用が可能であり、さらに太陽光発電パネルと蓄電池が備えられていることから、停電時でも最低限の機能を維持できる設計となっていた。鎌倉市では、平常時にはスポーツ施設やイベント会場に設置し、市民が利用できる形で運用されている。</p> <p>この「平時利用」を通して維持管理を継続し、災害時にもスムーズに現場へ移動し活用できる点は、導入にあたって非常に合理的な運用モデルであると感じられた。</p> <p>一方で、導入にあたっては課題も存在する。第一に、車両の購入費や維持費など、一定の初期投資が必要となる点である。</p>		

また、災害時に迅速に移動・展開するためには、車両を牽引できる人員の確保、燃料及び維持管理体制の構築が求められる。

加えて、平時の設置場所についても、地域住民が利用しやすく、かつ災害時には拠点となりうる場所を検討する必要がある。

本視察を通じ、トイレトレーラーは災害時のトイレ問題に対する有効な解決策となりうることが確認できた。また、平時と非常時の双方に活用できる「多目的防災資源」として、地域防災力を高める上でも導入効果が期待できると考えられる。



7 所 見

本視察を通じて、トイレトレーラーは災害時における排泄環境の確保という重要課題に対して、極めて有効な手段となりうると感じた。特に、平常時から市民利用に供することで維持管理が継続され、災害時にスムーズに活用できるという点は大きな利点である。また、上下水道環境が整っていない状況でも独立して運用できる点は、避難所が分散する昨今の防災体制において高く評価され

るべき点である。

ただし、導入に際しては初期費用、維持費、人員確保や運用体制の整備など、事前に検討すべき点も多い。今後は導入目的を災害対応に限定するのではなく、平常時の地域活用を含む多用途運用の観点から、具体的な費用対効果の精査と運営スキームの検討を進めていく必要があると考える。

委員会先進地視察報告書

報告者 晦日 房和

1 視 察 日	令和 7 年 10 月 10 日	
2 視 察 地	東京都 港区 六本木 5-16-7	
3 参 加 者	総務 委員会	
	1. 晦日房和 委員長	7. 永尾高宣 委員
	2. 入江詩子 副委員長	8. 黒岩智子（男女いきいき推進課） 課長
	3. 光山千絵 委員	9. 田中健一郎（安全対策課） 係長
	4. 中村仁飛 委員	10. 田中成龍 書記
	5. 城幸太郎 委員	11.
	6. 朝長英美 委員	12.
4 視 察 項 目	ボート関連団体への表敬訪問	
5 視察先選定理由・目的	昨年度で、ボートレース大村は5年連続で売上日本一を達成した。本市ボートレース企業局の努力はもちろんであるが、上部団体の協力も必要である。そのため、議会として今後のボート事業推進に向けて更なる支援をお願いするため訪問した。	
6 視 察 内 容	<p>日本モーターボート競走会（競走会）、全国モーターボート競走施行者協議会（全施協）、BOATRACE 振興会（振興会）、日本モーターボート選手会（選手会）のボート事業関連4団体は、2020年に現在の港区六本木の「BOATRACE 六本木」に集約され、ボート事業に係るそれぞれの役務を担っている。</p> <p>まず、委員長から、皆様のおかげで昨年までの5年間ボートレース売上日本一になったことのお礼を伝えた。さらに、今年12月のプレミアG1クイーンズクライマックス、及び来年度のSGグランプリについて、更なる応援要請をお願いした。</p> <p>1. 日本モーターボート競走会（競走会） 競走会はボート選手の育成や大きなレースの開催企画、全国のボート場への競技の配分などを担う重要な組織である。</p> <p>照沼理事から、第14回プレミアムG1クイーンズクライマックスは今度12月に大村であるが、第1回目の大会も大村で開催され、当時自身も手伝ったことを懐かしそうに話された。女子レースの人气が高く、G1クラスの3大会（残りレディースチャンピオン、スピードクイーンメモリアル）、G2クラスは2大会（レディースオールスター、SGチャレンジカップとの合わせ技（レディースチャレンジカップ））、またG3（オールレディース）および一般のヴィーナズシリーズなど毎年各レース場で最低年間2回はあると説明を受けた。また、ミッドナイトレースで、G2若しくはオールレディースやヴィーナズシリーズ等のレースをどうにか開催できないか尋ねたところ、4団体の定期的な会議で、ボートレースにとって良い事業につながる内容の検討をしている。今後、その会議の場に挙げていき、そのような検討がなされるのではないかと考えている。ちなみに、女性のレーサーは全体で1,600人のうち260人程度いるとのことであった。</p>	

また本市で採用しているエタノールを30%含む E30 ガソリンについて尋ねたところ、モーターの変更などあるが選手が対応してくれるだろうという返事だった。令和8年4月から順次モーターの更新時期に合せ、E30 ガソリン用のモーターに入れ替えていく。コストについては、E30の方が割高である。

2. 全国モーターボート競走施行者協議会(全施協)

全施協は、ボート事業の発展に向けて全国24場の共通の課題や諸問題に取り組み、他の3組織と24場の調整役にある組織である。対応していただいた佐藤専務理事から、平成20年頃の電話投票は2割くらいであったが、大村の頑張りが(8~9割)全体の売上げをけん引しているとお褒めの言葉を頂いた。また、来年のSGグランプリ頑張ってくださいとのコメントも頂いた。

3. BOATRACE 振興会(振興会)

振興会は、施設設備、周辺環境の改善など、各ボート場が取り組む事業を支援する重要な部門であり、特にボートレース事業の中核を担う組織である。

佐々木理事・川津理事及び本市出向の寺尾氏と面談した。まず委員長から、支援を受けた太陽光発電の設置についてお礼を伝え、今年2月から供用開始してナイターレース照明に使用する電力の約3割を賄える電力量をカバーしていることを伝えた。佐々木理事は、日経BP総合研究所の発表した住みよい街2025年のランキングで大村市が全国4位に入ったことも知っておられ、ボート場のある町と市民が共存していることを褒めていただいた。仕事から北海道から沖縄まで行ったが大村の町は活気がある印象があるが、ただタクシーがつかまらなくてセントラルホテルから空港まで歩いて行った。タクシーはどうにかしてほしいと要望があった。

また、インバウンドの取り込みを考えて、インスタグラム等でファンの獲得の戦略にも取り組んでいるとのことであった。

4. 日本モーターボート選手会(選手会)

選手会は、選手の健康管理、自主訓練などの支援を行っている。

鈴木専務理事と面談し、いろんな話を聞かせていただいた。

まず、フライングをすると出場停止になるなどの処分があるため注意をしているとの話であった。

新しい燃料の E30については、モーター部分も変わるので、慣れていくことが必要だが今は何とも言えないという回答だった。

レーサーについての質問が、議員からいくつかあった。①人口減少のためボートレーサーの試験を受ける人数が減少している。②試験では裸眼で0.8以上が必要なので、試験のハードルを(0.5以上に)下げてもらいたい。③年間2,000人受験するが(女性のレーサーは増えている)、50人ほどしか選手になれない。④ボートレーサーになるのに国籍は関係ない(試験は全て日本語)、⑤性別により体重が異なり(最低体重制限:女性 47kg、男性 52kg)、同じレースで走る場合は問題があるのではないか(女性は体重が軽くて有利と言われている)。⑥日本一の年俵は、年間1億8000万円、1億円以上が10名程度という回答があった。

7 委員会所見	<p>4団体の代表者の方と会談時間が20分ずつと短かったが、皆さんから20年前は全国でも最下位に近かったが、5年連続で売上日本一になったことに対して企業局及び議会に対する賞賛の言葉を頂き、ありがたく思いました。</p> <p>今年の年末はプレミアム G1 クイーンズクライマックス、来年は SG グランプリと続くので頑張ってください、また、大村に行くと言ってくださいの方々がおられ、ありがたい言葉を頂きました。また、大村のミッドナイトレースが11時までできているが、レース場自体が地域の皆さんから「ボート場があつて良かった」と理解がもらえるよう今後も努力してほしいという言葉をお願いしたいと思いました。</p> <p>CO2 削減のため、E30 を大村で使用したことへの感謝の言葉を頂いたり、さらに太陽光発電も順調ですと話したら、何かあればすぐに連絡してくださいと協力的な言葉を頂き、挨拶に行った甲斐がありました。</p>
---------	---